

2025 年度前期 大学入門ゼミフィールドワーク報告書

新世界と天王寺動物園



はるかすキャンパスにて(撮影:2025 年5月 24 日、渡辺和之)

阪南大学国際学部国際観光学科

渡辺ゼミ

フィールドワークを開催するまで

国際観光学科 3 年 SA 米田圭吾

2025 年 4 月、国際学部国際観光学科入門ゼミ 1 年生 14 人（男子 7 人、女子 7 人）を迎えました。そこに新入生をサポートする SA(Student Assistant)2 名と先生を含めた 17 人で 2025 年度の大学入門ゼミは幕を開けました。

大学入門ゼミでは観光学の基礎知識を学ぶことを同時に、同じ入門ゼミ生の学生と仲良くなり、学校生活に馴染むことを目的として、フィールドワークを実施しています。以前同様、前期の大学入門ゼミでは、日帰りで大阪市内を中心としたフィールドワークを行っております。特に今年は地方から来た女子学生が 2, 3 人おりました。今年のフィールドワークは、彼女たちに大阪の観光地を見てもらうことが今年のフィールドワークの目的としました。しかし、キタもミナミもとなると、とても 1 日では周りきれないことが分かってきました。そこで、今回はミナミの新世界を中心とすることにしました。

今回のフィールドワークでは、5 月 24 日（土）の午前 10 時にあべのハルカスキャンパスに集合しました。SA である自分としては、全員が迷わずに集合場所にたどり着けるかどうかというのが一番の心配した点でした。ハルカスキャンパスへの生き方はちょっと複雑です。地下一階からオフィス街行きのエレベーターに乗ることや 17 階でエレベーターを乗り換える所が迷いやすいのです。

また、当日は物凄く雨が降っていたので、寒くて本当に開催できるのかと不安でした。雨の中で一番大変であったのが、新世界に訪れていた外国人観光客へのインタビューでした。雨が降っていたので、傘を差してインタビューをするのが非常に大変でした。自分が濡れる以上に、アンケート用紙を濡らさないように記入するのが大変でした。

天王寺動物園では、雨の中ということもあったので、普段の晴れの日と比較すると、檻の中へ入っている動物が多く見えました。正直なところ、動物園に行った時間帯が雨のピークタイムだったので、5 月なのに肌寒く感じました。1 年生にとっては、最初から相当大変な経験であったと思いました。

今回、天王寺動物園を訪れて、こんなに広い場所だったのかと驚きました。以前訪れたのは、小学校低学年だったので、おそらく限られた場所しか見学していなかったのでしょう。動物を見る自分の関心も変わったことがわかりました。レッサーパンダを見ていると、動物にかわいらしさを感じる自分がいました。フィールドワークを通じて、動物園は癒しの場所であることを発見しました。

フィールドワークはただ現地に足を運んで終了ではありません。場所を決めその場所を調査しレポートを書き終えるまでの過程のことをフィールドワークというものです。それは、また再度足を運んだ時にどのようなことを感じ、考え、何を学ぶというのが観光のフ

ィールドワークというものです。今回のフィールドワークが思い出作りの場所になると同時に、観光学を学んでもらう最初のきっかけになればよいと、私は思います。



写真1 レッサーパンダ 撮影：渡辺和之

大阪新世界「元祖串かつだるま」の歴史

国際観光学科 1 年 西村 知甫

1.はじめに

お昼ご飯は、大阪の新世界にある有名な串カツ店「串かつ だるま」を訪れました。私は最近大阪に住み始めたので、まだあまり大阪の文化を知りません。ゼミ内で大阪出身の学生に「おすすめの串カツ屋さん」を尋ねたところ、「だるまというお店が有名で美味しいよ」と教えてもらいました。大阪名物の串カツを実際に食べることで、大阪の食文化を感じたいと考えました。このレポートでは、だるまの歴史と、行ってみて食べた感想を書きたいと思います。

2. 串カツだるまとは

大阪新世界 元祖串カツだるまのホームページによると、昭和4年（1929年）に大阪新世界ルナパーク跡地に、当時は「だるま」ではなく「たこ菱」と言う屋号で、初代百野（ももの）ヨシエ氏が創業したのが始まりであると記載されています¹⁾。『あのメニューが生まれた店』という書籍では、株式会社一門会代表取締役の上山勝也（うえやまかつや）氏は、以下のように語っています。

新世界は道路一本挟んで、労働者の街・西成と隣り合っており、創業当時、一日の仕事を終えてお腹を空かせた肉体労働の人たちに満足してもらうため、初代の百野ヨシエ氏が肉を串に刺して、衣をつけて揚げたものを、彼らの一日の労をねぎらおうと、かなり安く提供したそうです²⁾。

創業当初からお客さんのことを大切にした運営の方針であったことが分かります。串かつだるまのホームページによると、その後の歩みとして、以下のように記載されています。

昭和34年（1959年）に二代目が引退し、三代目百野貴彦（もものたかひこ）氏に代替わりします。この時に屋号を「ダルマ」から「だるま」に改名しました。三代目は思考錯誤しながらも、メニューを30種類以上にまで増やしました。しかし2001年には、三代目は病気で店を閉めることにしました。すると、若い頃から常連客だった俳優の赤井英和氏が、三代目に継続を願い出て、現会長である四代目上山勝也氏に『だるま』を託したそうです³⁾。

また、同記事によると、2001 年 11 月から数年間、三代目の奥様である「おかあちゃん」が指南役として店に入り、指導を続けたそうです。串カツは季節や湿度で水の水分量や練り方が変わります。また、材料を入れるタイミングはソース作りの肝ですし、揚げる時には、食材によって衣の量や揚げる時間を変えねばなりません。そのひとつひとつをおかあちゃんは丁寧に指導してくれたそうです。当時、常連さんからは味が変わった言われることもありました。それは「だるま」を守り続けて欲しいと言う常連さんのメッセージでもあったと記されています⁴⁾。

串かつだるまは、時代を超えて受け継がれながらも、昔ながらの味を変わらないように守ってきたことが分かりました。

3. 実際に行ってみて

店内は、提灯やメニューの装飾がされていました。カウンター席にはたくさんお客さんが座っていて、とても賑やかです。

テーブルにはボトルに入ったソースが常備されていました。串カツにかけてみると、想像していたものと全く違う、さらさらとした液体で驚きました。

注文した中で特に印象に残ったのは、「元祖串かつ（肉）」、「天然えび」、「たこ」です。お肉は揚げ物なのにさっぱりとした味で、何本でも食べたくまりました。えびは大ぶりで食べ応えがありました。たこは足を丸ごと串に刺したような形状を想像していましたが、一口サイズに切られていて、食べやすくするための工夫を感じました。どの具材もソースにとっても合い美味しかったです。

また、だるま名物の「どて焼き」も初めて食べました。名前から鉄板焼きのようなものを想像していましたが、全く違うもので驚きました。牛筋がやわらかく濃厚で、とても美味しかったです。

重谷先生がおすすめされていた紅しょうが串はセットに含まれておらず、食べることができませんでした。ぜひまた来て食べてみたいです。

4. まとめ

昔ながらの串カツの味を守ってほしいという、お客さんたちの期待にだるまは応えてきました。そうすることで、だるまの串カツは今も受け継がれ、地元の方にも、観光客にも愛されていることがわかりました。地元の方とのつながりを持ちつつ、観光客や訪日外国人の方々にも喜んでもらう。そのためには、双方のバランスを考えることが重要であると考えました。食を通じて地域の歴史や文化を知ることができ面白かったです。

【注】

- 1)大阪新世界元祖串カツだるま「HISTORY：だるまの歴史」<https://www.kushikatu-daruma.com/history/>（採録日：2025 年 6 月 4 日）
- 2)石川順一『あのメニューが生まれた店』平凡社、2013 年、61 ページ。
- 3)大阪新世界元祖串カツだるま「HISTORY：だるまの歴史」<https://www.kushikatu-daruma.com/history/>（採録日：2025 年 6 月 11 日）
- 4)前掲書 2

【参考文献】

- 菊地武顕『あのメニューが生まれた店』平凡社、2013 年。
大阪新世界元祖串カツだるま「HISTORY：だるまの歴史」<https://www.kushikatu-daruma.com/history/>（採録日：2025 年 6 月 11 日）



写真1 串かつだるま動物園前店の外観
撮影:西村知甫



写真2 店内の様子 撮影:西村知甫



写真3 ソースボトル 撮影:西村知甫



写真4 どて焼き 撮影:西村知甫

初めてのだるま

国際観光学科1年 金光羽海

串カツやお好み焼き、たこ焼きなど大阪には美味しい食べ物がたくさんあります。その中で私たち渡辺ゼミは新世界に串カツを食べに行きました。大阪出身ではない私ともう一人の子がお店を決める担当になり、大阪出身の子に聞いてだるまに行きました。大人数だったので、かなり待つことも覚悟していました。しかし、予約なしで11時半頃に17人で行ったのに、3分ほどの待ち時間でお店に入れて驚きました。

3つに分かれてテーブルに座りました。私たちはお得なメニューである動物園前セット、新世界セット、じゃんじゃんセットを注文しました。全てのセットにどて焼きがついていて、どて焼きをキムチか枝豆に変更することもできました。私たちは1セットをどて焼きで注文し、残りの2セットをそれぞれキムチと枝豆に変更しました。

最初にどて焼きとキムチと枝豆が来ました。どて焼きは大阪の郷土料理で、牛のすじ肉を味噌やみりんなどで煮込んだものです。初めて食べたのですが、想像していたよりも味が濃くて美味しかったです。みんなでシェアしながらどて焼きを食べていると、串カツが来ました。たくさん頼んだので、2回に分けて出してもらい、まずもちやえび、うずらやさつまいもなどが来ました(写真1)。

私はもちが好きなので、もちを最初に食べました。店員さんに塩で食べることをおすすめしていただいたので、塩で食べてみました。衣をつけて揚げたもちを食べるという経験があまりなかったので、新鮮でとても美味しかったです。そのあとチーズちくわやとんかつ、さつまいもを食べました。衣がさくさくで、ソースとの相性が抜群で、美味しかったです。串カツといえばソースを浸すスタイルを予想していましたが、卓上にあるソースボトルを上からかけるスタイルになっていました。浸して食べるのをやってみたかったので、少し残念でした。そのあと、残りのれんこんや鰻(はも)などが来て、たこや鶏からあげを食べました。特にもちとさつまいもが美味しかったので、今度串カツを食べるときも必ず注文しようと思いました。

今まで新世界は車で通ったことしかありませんでした。今回初めて観光目的で訪れてみると、外国人観光客の多さに改めて驚きました。お店に入っても、道を歩いていても、周囲からは日本語ではないさまざまな言語が聞こえてきました。レトロな街並みや活気のある雰囲気を見て、新世界は外国人に人気のある観光地だと実感しました。また、串カツのお店の前には長い行列ができていました。その多くが外国人観光客だったことから、新世界が観光地として人気高いことがわかりました。何気なく通り過ぎていた場所がこんなにも活気がある場所であることに驚きました。新世界の新たな魅力を発見することができた貴重な体験でした。



写真1 だるまの串カツ。撮影：金光羽海

新世界周辺の観光と通天閣周辺の魅力

国際観光学部 1 年 松本 璃久

1. はじめに

5 月 24 日（土）に大学入門ゼミの大阪のフィールドワークで新世界周辺に訪れました。大阪の代表的な観光スポットの通天閣周辺に行き、主に外国人に足を止めてもらい、インタビューしました。以下では、その内容や、今回のフィールドワークで実際に体験して学んだことを報告していきます。

2. 外国人観光客へのインタビュー

まず、観光客の方に話しかけ、足を止めてもらい、インタビューをさせてもらうまでが初めの壁でした。インタビューに同意してもらえたら、次のことを聞きました（表 1）。

1 つ目の質問では、どこ出身の方なのかを尋ねました。1 番多かった国は、アメリカが 5 組です。その次にイタリア、オーストラリア、ドイツがそれぞれ 2 組で 2 番目でした。最後にイギリス、イングランド、エジプト、オランダ、カナダ、チェコ、デンマーク、フランス、ポーランド、ロシアが全て 1 組ずつと並びました。

2 つ目の質問では、いつ日本に訪れたのかを聞きました。すると結果はやはり人それぞれで、数日前の方もいれば、2、3 週間前の方や、1 名だけ 3 年前の方がいました。

3 つ目の質問では、訪日目的を訪ねました。20 名の方にインタビューをしましたが、18 名とほぼ大半が観光目的や息抜きをしに日本に訪れた方でした。ほかの 2 名の方はお 1 人が仕事、もう 1 人の方は留学をしに訪れた方でした。

4 つ目では、情報取得媒体を訪ねました。多くの人が YouTube やアニメと答えてくれました。そのなかには、USJ のサイトであったり、インスタの方もいました。

5 つ目では、好きな日本食について訪ねました。やはり大抵の方がお寿司と答えていました。また、大阪名物のお好み焼き、たこ焼きも多かったです。

6 つ目では、自国の国のご飯と日本のご飯の違いについて聞きました。ただ、その国ごとの共通点はみられませんでした。その人その人の味が薄いであったり、濃いであったり、各個人の感想でした。

7 つ目では、日本の長所と短所を聞きました。20 人中 19 人が悪いところはないと答えてくれました。1 つ唯一上がったのは大阪の悪いところでもある汚いという点でした。長所にはとても多くの意見を挙げてもらいました。日本の国の人は礼儀正しくフレンドリーという意見が多く、その他に安全、景色が美しい、食べ物がおいしい、静か、などの意見があがりました。

3. インタビューを通して

いろんな方にインタビューをして感じたことは、外国の方々は日本人以上に日本の施設

や食べ物に詳しい方が多く、こちらが驚くことが多々あったことです。新世界に来ていた外国人の目的の多くは、食べ物目的の方が多くいました。それに加え、伝統的な食べ物を巡る旅をしている方もおりました。

この経験を通じて、日本は食の発展を目指し、もっと日本の食を色々な媒体で推し進めていけるといいなと、私は感じました。

表1 新世界を訪れた観光客への聞き取り

No.	性別	何人組	関係	出身国	来日時期	訪日目的	情報取得媒体	好きな日本食	国の料理との違い	日本の長所と短所
1	女	3人	友人	アメリカ	5年前	観光	YouTube、テレビ (NHK)	焼肉	ヘルシー	美しい、親切、助けてくれる、安全
2	女	2人	友人	アメリカ?	今朝	遊びに来た	USJのサイト	まだ食べていない		ラスベガスっぽい。自由、せっかち
3	男女	2人	友人	アメリカ	1週間前	観光	YouTube	ラーメン、ソバ、カレー	種類が多い	食べ物、雨
4	男	2人	友人	アメリカ	4日前	観光、文化	SNS	寿司 お好み焼き	とてもいい。きれい	礼儀正しい、交通が24時間走っていない。
5	男	3人	友人	アメリカ	2日前	観光	YouTube	すし		人がやさしい
6	女性	1人		イギリス	15日前	観光	Instagram、YouTube	ラーメン、すし	おいしい	日本はきれいで美しい。人はフレンドリー
7	男女	2人	カップル	イングランド	2日前	観光	Instagram	たこ焼き		人が温かい
8				ドイツ						とても礼儀正しく、フレンドリー、複雑ではない、混雑した
9	男性	1人		ドイツ	1週間前	神戸で会議	SNS	たこ焼き	ない	いろいろ。Punctuality, freandlinemo, 仏教に見られる
10	男女	2人	家族	オーストリア	昨日	祝日	Instagram	すし	味の濃さ	人が優しい セッカチ
11				オーストリア	2週間前	観光				
12	男	2人	友人	イタリア	昨日	観光	アニメ	すし		
13	男	1人		イタリア	1日前	観光	アニメ	パスタ	人が良い	バスケ
14				チェコ	5日前			お好み焼き		
15	男	1人		デンマーク	2週間前	息抜き	YouTube	ラーメン	fish soup	デンマークと違ったおもしろさがある
16	女	2人	友人	ポーランド	2日前	大阪万博	Instagram	すし	甘い	すべていい、日本大好き
17	女	2人	友人	ロシア	5日前	寺 神社	テレビ	ぎょうざ		
18	男	2人	友人	フランス	2週間前	陶磁器、寺院、神社	料理	お茶 オムレツ ビーフ スープ	味のうま味	きれい 静か 暖かい
19	女性	1人		オランダ	2週間前	観光	テレビ ガイドブック	天ぷら	朝からごはんが暖かい	礼儀正しいところ。散漫にならない?
20	女	2人	家族	カナダ	2日前	動物園	テレビ	カツ	すごい	汚い
21	女	2人	友人	エジプト	3年前	仕事、留学	アニメ	そうめん	味がうすい	安全、しずか

出典：新世界での聞き取り(2025年5月24日土曜日)

新世界で観光客へのインタビューをした

国際観光学科 1 年 森田凌雅

5 月 24 日（土）に大学入門ゼミで大阪フィールドワークに行きました。この日はすごい雨となり、蒸し暑い中、新世界を訪れました。新世界でどのようなことを体験し、観光客の方にインタビューをして学んだこと、感じたことをレポートします。

新世界では、大阪に来ている観光客の方にインタビューをしました。私は石川君、中島君、中村君と通天閣の下でインタビューをしました。最初に声をかけた方は、No.7 のイングランドから来た男性と女性の夫婦の方でした。ユーチューブを見て日本に観光に来たそうです。日本に訪れたのは 2 日前で、日本で食べた料理ではたこ焼きが美味しかったそうです。日本の良いところと悪いところを質問したら、良いところは日本の人はあたたかいことだそうです。悪いところはないとのことでした。

No.13 の方は女性の 2 人の友達同士で訪れたロシア人の方々でした。日本に訪れたのは 5 日前で、テレビを見て日本に訪れようと思ったそうです。日本で食べた料理で美味しかったのは餃子だそうです。日本のいいところは綺麗で美しいとおしゃっていました。

No.14 の方は女性 2 人の友達同士で訪れたアメリカ人の方々でした。日本に訪れたのは今朝で、日本には遊びに来ました。ユニバーサルスタジオジャパンのサイトを見て日本に来ようと思ったのだそうです。日本の料理はまだ食べてないらしいです。日本のいいところは自由とのことでした。

私が新世界でインタビューをして感じたことは、新世界は日本人の観光客の方より海外から訪れた方の方が比較的に多いことでした。日本は世界中の人々から人気であるとわかりました。



写真 1 通天閣の下で。インタビュー中の様子。撮影: 森田凌雅

新世界フィールドワーク

国際観光学科 1 年 中村駿太

5 月 24 日（土）にフィールドワークがあり、新世界に行きました。そこで観光客の方たちにインタビューした内容をレポートに書いていきます。まず、新世界をテーマにした理由は、1 番大阪を感じることができる場所だと考えたからです。天王寺の都会の空気とは雰囲気がガラッと変わり、大阪の色を強く感じました。新世界の最寄り駅は地下鉄御堂筋線の動物園前駅です。天王寺駅から近いので、あべのハルカスキャンパスから歩いていくことができます。新世界の中央には通天閣がそびえたち、その周辺には大阪名物の串カツなどを出す多くの飲食店がありました。庶民的な雰囲気が魅力的で、地元の人々だけでなく観光客にも人気のスポットになっています。また、新世界には、将棋を楽しむ施設や射的、レトロなゲームセンターなどの娯楽施設もあり、訪れる人々が老若男女楽しい時間を過ごすことができる場所になっています。

私は、森田君と石川君と中嶋君と一緒に 2 組の方にインタビューしました。1 組目は、アメリカからきて 1 日目の女性二人組でした。2 人は友人で USJ のサイトを見て大阪に来たそうです。日本のいいところはラスベガスみたいで自由だと言っていました。悪いところは人々がせっかちだと言っていました。2 組目はカナダから 2 日前に来た家族でした。日本に来た目的は、テレビで日本の動物園を見て、それを目当てに大阪に来たそうです。好きな日本食は串カツで、日本の料理はすごいと言っていました。日本の悪いところは汚いところと言っていました。1 組目の方たちの出身国のアメリカには、「サンディエゴ動物園」という世界一の動物園があったり、ユニバーサル・スタジオやハリウッドがあるのに大阪に旅行に来てくれたことを大阪府民としてうれしく思いました。2 組目の出身地のカナダにはトロント動物園という動物園があり、287 ヘクタールというカナダ最大の動物園があり、東京ドーム約 61 個分の大きさがあります。天王寺動物園の大きさは、約 11 ヘクタールと、トロント動物園の 28 分の 1 の大きさになるのだそうです。

私は、このフィールドワークを通して日本の良いところも悪いことも知ることができました。それと同時に、海外の方たちの優しさや文化も少し知ることができたので、本当にいい経験になりました。後期のフィールドワークでは、今回以上に内容の濃いフィールドワークにしたいと思いました。



写真1 動物園に来た外国人観光客。撮影: 中村駿太

観光客にインタビューしてみた

国際観光学部 1 年 石川駿介

5 月 24 日にゼミ活動で大阪フィールドワークがありました。今回は天王寺に行き、大阪に来ている観光客になぜ大阪に観光で来ているのかについてインタビューしました。インタビューで自分がどのように感じたか、また自分がどのようなことに気付いたのかを、このレポートについて書いていきます。普段では関わる事のない色々な国の方々とも関わる事が出来たのが物凄く新鮮でとても良い経験になりました。

まず、大阪に来ている観光客はなぜ日本に来ようと思ったのかについて触れていきます。やはり一番多かった理由は、テレビや SNS を通じた“メディア”の存在でした。内訳でいうと、21 人中、テレビ 3 人、YouTube 5 人、インスタグラムが 4 人、アニメ 3 人、SNS が 2 人、他に料理と答えた人が 1 人、無回答が 3 名いました。スマートフォンやテレビが普及している世の中なので、色々な情報がメディアを通じて伝達を改めて感じました。メディア以外にも、“アニメ”の存在もありました。日本が海外で人気な理由として有名な 1 つがアニメなので、これも理由として入ってくるのかと思いました。私が聞いた人はワンピースやドラゴンボールが人気だと話していました。アニメを通じて日本の文化に興味を知ってもらえることは、日本人としてとても光栄でした。

次に、日本に来て美味しかった料理について触れていきます。数多くの観光客にインタビューし、一番多かった料理は“寿司”（21 人中 4 人）でした。寿司といえば日本で最も有名な日本食と言っても過言ではない程の料理です。やはり日本以外の国の方々にも刺さる料理でした。寿司の中でも、納豆巻きは好まないと言う人もいました。日本人でさえも、納豆は好き嫌いが分かれる食べ物なので仕方がないことだと思いました。なぜ納豆を嫌うのかも聞きました。嫌いな理由は、匂いだと答えました。「あの独特な匂いをなぜ寿司として作ったのか」と怒りを覚える人もいました。そこまで思うのかとも思いましたが、日本以外の国ではなじみのない食文化なので、それも仕方がないことだと思いました。寿司の他にも、ラーメン（3 人）、たこ焼き（2 人）、お好み焼き（2 人）も人気でした。その他に、焼肉、天ぷら、ソーメン、ソバ、お茶などの和食も、餃子、パスタ、オムレツ、ビーフスープなどの中華や洋食に混じって出てきました（各 1 人）。和食はとても偉大なものなのかと知らされました。

今回のフィールドワークで自分は、ただ単純に楽しかっただけではなく、色々な国の方々と関わったという経験や、知識なども学べました。フィールドワークに行く前は正直行く気がなかったのですが、実際行ってみて本当によかったなと思いました。とても良い経験をありがとうございました。



写真1 愉快的ゼミ仲間。2025年5月24日、撮影：渡辺和之

新世界フィールドワーク：串カツ・外国人観光客へのインタビュー・天王寺動物園

国際観光学科 1 年 中嶋伸輝

今回のゼミ活動では、大阪天王寺エリアでのフィールドワークとして、海外からの観光客へのインタビューを行いました。また、大阪名物である串カツを体験し、最後に天王寺動物園を訪れました。普段の座学とは異なり、実際に現地に訪れて人と関わることで、多くの学びや発見がありました。

まず、新世界周辺で外国人観光客へインタビューをしました。私たちは事前に準備した英語の質問を元に、観光の目的や印象、大阪で訪れたい場所などを尋ねました。最初は緊張しましたが、笑顔で応じてくれる方が多く、会話が弾みました。特に印象的だったのは、アメリカからきたカップルが「大阪の人達はとても親切でフレンドリー」と話していたことです。インタビューを通じて、言葉の壁を越えたコミュニケーションの大切さや、観光客目線での大阪の魅力を知ることができました。

インタビュー後は、通天閣近くの有名な串カツ店で昼食をとりました。「二度漬け禁止」のルールなども面白く、海外の人にとってもユニークな文化体験になると感じました。自分のテーブルには、「二度漬け禁止」のみなでつけるソースが置いてありました。しかし、面倒だったので、私はテーブルに置いてあった小皿にボトルに入ったソースを付けて食べました。「二度漬け禁止」と言いながら、それ以外の選択も出来るようにしっかり配慮もされていました。食文化を通してその土地の文化を再確認できました。

最後に訪れた天王寺動物園では、家族連れや観光客で賑わっておりました。大阪市内にありながら自然や動物と触れ合える貴重な場所であることを実感しました。動物たちの姿を見ることで癒されると同時に、動物の保護や環境問題についても考えるきっかけになりました。

今回の経験を通じて、自分自身の中でいくつかの意識の変化が生まれました。まず一つ目は「伝える力」の重要性です。英語のインタビューでは、簡単な単語や表現でも、伝えようとする姿勢と笑顔があれば十分にコミュニケーションが成立することを実感しました。言語に時間がなくても積極的に話しかける勇気が大切だと気付きました。

また、普段当たり前のように感じていた大阪の文化や街並みも、観光客の目線で見ると新たな発見が多かったです。「難波」や「通天閣」が特別な観光スポットとして外から観光客に認識されていることや、「串カツ」のような食文化が大阪ならではの魅力であることを再確認しました。自分の住んでいる街を外からの視点を見ることで、誇りや愛着が深まったと思いました。

今後は今回の経験を活かしていき、さらに積極的に他者と関わる気持ちを持ち、異文化

や地域文化への理解を深めていきたい。特に観光や国際交流の分野には大きな可能性があると感じました。天王寺での一日は、観光体験を越えた自分の視野を広げる貴重な学びの場となりました。



写真1 天王寺動物園 撮影：森高栄太

通天閣でインタビューをして気づいたこと

国際観光学科 1 年 北野琉斗

今回の大阪フィールドワークでは、通天閣に行き、日本に来た外国の方にインタビューをしました。なぜ、インタビューをしたのかというと、日本との文化の違いであったり、どのような目的で日本に来たのか興味があったからです。実際にインタビューをしてみて、本当にたくさんの国から来ていたり、すごく長く日本に滞在する人もいることを知りました。

インタビューをしてみて気づいたことがあります。一つ目は日本の伝統的な料理である「すし」を食べに来た人が多かったところです。私たち日本人が外国人に勧める伝統的な食べ物は大抵の人がすしなのではないでしょうか。外国人観光客の間では、寿司屋のなかでも目の前で握ってくれる寿司屋さんが人気であることが分かりました。私も数回しか行ったことがありません。どの国の人も目の前で握ってくれることで衛生的で安心して食べれるんだと思いました。また、握るところを一目見たい人が多いんだと新しい発見をしました。

二つ目に気づいたのは、日本についてユーチューブで知った人が多かったことです。私はインスタグラムや他のサイトのほうが多いと思っていました。でもユーチューブが多かったのは、現在ではユーチューブの編集技術のレベルが非常に上がっていることが背景にあるのでしょうか。ユーチューブだと多くの人がやっているし、日本の良さを短時間で見ることができるし、気軽に見れるので良いのかなと思いました。

三つ目はとてもフレンドリーな人たちがたくさんいることが分かりました。私たちがインタビューをしたときは、すごく雨が降っていました。私たちも、あまり長い時間観光客の方を引き留めてはいけないうので、インタビューも短く終わらせようとしていました。ですが、声をかけると笑顔で応じてくれました。私の英語力では聞き取れない答えもありました。しかし、わかりやすい言葉で説明し直してくれたり、聞き取れなかったものはわざわざ書いてくれたので、ちゃんと理解することができました。改めて海外には、心穏やかで親切な人がたくさんいて、素晴らしいなと実感しました。

インタビューをしてみて一番驚いたことは、悪いところがありませんでした。唯一悪いところをあげていただいた人は「雨の日」でした。たしかに日本には梅雨という雨が降る時期があり、フィールドワークに行った時も強い雨が降っていました。ですが、そんな日でも外国の方たちは傘をさしたり、カップを着てまで通天閣の周りを散策し、食べ物を探していました。本当に彼らは日本が好きなんだなと思いました。

このフィールドワークを通して、外国人の方はどんな日でもそれを日本の魅力だと楽しんでいたり、優しい人が多いなということが分かりました。



写真1 新世界を訪れる観光客 撮影：渡辺和之

観光におけるアニメの存在

国際観光学科 1 年 森高栄太

はじめに

フィールドワークを通じて、アニメから影響を受けて日本に観光に来ている外国人が多いと分かりました。そのため、以下では、観光とアニメの結びつきを考察していきます。

インタビューを通じて外国で人気のアニメを知ることができました。

インタビューの中で、「ONE PIECE, ドラえもん」というワードが多く出てきました。ONE PIECE, ドラえもんが世界でも有名だと知り、新しい知識になりました。なぜアニメを見て日本に観光しに行きたくなるのでしょうか？その理由は大きく分けて3つあります。

1つ目は「聖地巡礼」です。日本国内には、アニメの舞台になった場所が多く存在しています。また、外国人観光客は「日本のアニメの聖地は憧れの場所であり、旅行の大きな目的のひとつ」になっているからです。最近では、SNS・YouTubeなどで旅行体験を発信する人も多くなり、多くの人が日本へ旅行するイメージが付きやすくなっています。

2つ目はアニメから日本の文化を知り魅力に感じることです。アニメは物語を通じて、日本の独自の価値観や文化、伝統を伝えることができます。外国人観光客は、アニメから日本の風習や生活様式を体験したいと日本を訪れる人も少なくありませんでした。私たちがインタビューした21人のうち、3人がアニメで日本を知ったという人がいました。また、畳の部屋や温泉など、日本の普通の日常や、お祭りなど、非日常的で特別なことを求めて来日された人もいました。また、アニメは、国や文化を超えるつながりのツールとなっています。アニメの世界に触れたい、同じ体験をしたいという思いが、旅行に影響しています。

3つ目は、国際的に人気なイベントやフェスティバルです。アニメ関連のイベントやフェスティバルによって日本観光を促進する大きな要素になっています。インタビューした外国人のなかには、万博に来るため来日した方がいました。こうしたイベントは、日本のアニメを世界に発信すると同時に、外国人が日本を訪れる重要な理由になっているのでしょう。

まとめ

アニメには見るだけで終わらず体験したい、その場所見てみたいなどの感情を生むメディアだと思いました。アニメは日本文化を世界に発信でき、経済においても重要な存在だと感じました。



写真1 インタビューした方と 撮影：森高栄太

レッサーパンダとキリンについて

国際観光学部 1 年 庄礼有那

私は先日、天王寺動物園にフィールドワークに行ってきました。色んな動物がいる中で私は、レッサーパンダパンダとキリンについて調べてきました。なぜレッサーパンダパンダとキリンにしたかという、私は昔からパンダが好きで、和歌山県の白浜にあるアドベンチャーワールドにもよく行っていたからです。キリンも昔から好きで、首が長い理由やキリンの種類について知りたかったからです。

レッサーパンダ (*Ailurus fulgens*) についてわかったことがいくつかあります。1つ目はアライグマの仲間ということです。白浜に今年までいたパンダはジャイアントパンダ (*Ailuropoda melanoleuca*) で、レッサーパンダとは種類が違います。ジャイアントパンダはクマ科であるのに対し、レッサーパンダはレッサーパンダ科です。アライグマ科は、雑食性で、南北アメリカ大陸に住んでおり、尾が長く、顔と尾にははっきりした模様があります。レッサーパンダは、今ではレッサーパンダ科ですが、かつてはアライグマ科に分類されていたことがわかりました。¹⁾ 2つ目は特徴についてです。レッサーパンダの特徴は、「夜行性で、単独で暮らし、主食はタケの葉やタケノコ」だそうです²⁾。また、木に登るために指先にはジーンズも貫通する鋭い爪が生えていることもわかりました。アライグマ科には、レッサーパンダ以外にクロアシカコミスル、フサオオリングがいることがわかりました。園内でも、私たちの方によって来てくれてすごく活発な様子でした。

キリン (*Giraffa camelopardalis*) について分かったことは、「長い首と足を持つキリンと、その首と足を短くしたようなオカピの2種類がいる」ということです³⁾。「キリンは草原に、オカピは森林に住み、どちらも角と長い舌をもっています」⁴⁾。

また、「動物の中で一番背が高く、背のわりに、胴が短いのも特徴になっており、時速45～50 kmで、長距離を走ることができます」⁵⁾。「視力がよく、高い位置にあるため、哺乳類の中で、一番広い範囲のものをみることもできます。聴覚は優れているが、コミュニケーションは、主に、身振りによる信号で行います。キリンの角は、普通2本だが、時に4本、または、5本の角を持つキリンもいます。食事のときは、45 cmものびる長い舌を木の枝に絡め、口元に運んで、葉をしごきとって食べます。さらに、前足の強烈なキックで、ライオンを殺すこともあります」⁶⁾。

キリンは、頭上の木の芽を食べようとして首を伸ばす努力をしているうちに、ついに首が長くなり、それが子孫に伝えられたと言われています。このラマルクの考えは用不用説とよばれ、ダーウィンの進化論の先駆ともされています⁷⁾。

園内で実際に見たときも首が本当に長くて、高い位置にある葉を食べていました。キリンは、特定の木の葉を好んで食べる習性があり、ほかの動物が到達できない位置にある葉を食べるために長い首が適していることもわかりました。

今回のフィールドワークで、動物の特徴について知ることができました。キリンは、首が長いイメージしかなかったけど、他にも特徴を知れて良かったと思いました。今回のフィールドワークを通じて、実際に現場に行かないと得ることができない情報もあることがわかりました。次回は、事前調査をした上で、現地でしっかりと学ぼうと思いました。

【注】

- 1)山極寿一『講談社の動く図鑑 MOVE：動物』講談社、2011 年、88 ページ。
- 2)同書、88 ページ。
- 3)同書、121 ページ。
- 4)同書、121 ページ。
- 5)同書、121 ページ。
- 6)同書、121 ページ。
- 7)荒俣宏 1988『世界大博物図鑑第 5 巻哺乳類』平凡社、315 ページ。

【参考文献】

山極寿一（監修）2011『講談社の動く図鑑 MOVE：動物』講談社
荒俣宏 1988『世界大博物図鑑第 5 巻哺乳類』平凡社

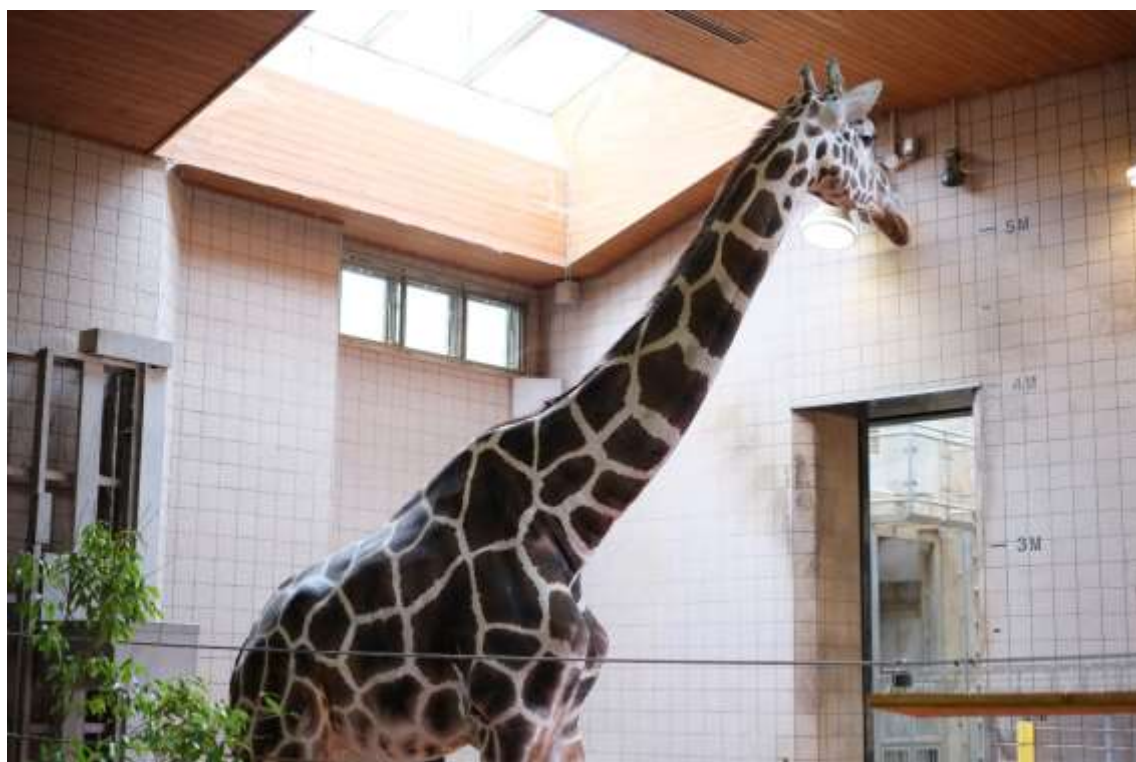


写真 1 天王寺動物園のキリン 撮影：渡辺和之

フンボルトペンギン

国際観光学科 1 年 深海心渚

5 月 24 日に大阪フィールドワークがあり、天王寺動物園に行きました。天王寺動物園には、たくさんの動物がいてその中で私はフンボルトペンギンに興味を持ちました。この大阪フィールドワークを通して知ったことや学んだことをこのレポートに書いていきます。

動物園の中にあった QR コードの情報によると、フンボルトペンギンは、学名は *Spheniscus humboldti*、体長 70cm ほどで、腹部から足にかけて丸みがあるそうです。実際に動物園でペンギンを見ると、腹部に丸みがあるように感じました。また、動物園の QR コードの情報によると、全身が小さい羽で覆われていて、びっしり生えた羽で冷たい水からだを守ることができ、泳ぐために平たくて硬い船のオールのような翼を持っています¹⁾。そして、ペンギンブックの情報によると、「水中の滞在時間は 18~47 秒ほどで 11m ほど潜り時には水深 50m 程まで潜る」そうです²⁾。私たちが見に行ったときは天候が悪く、そのせいか、天王寺動物園のフンボルトペンギンはあまり深く潜らず、浅いところにいました。

Endangered World animal というサイトによると、フンボルトペンギンは現在絶滅危惧種に指定されており、その数は年々減少しているそうです。その主な原因は「地球温暖化による海水温の変化やフンボルトペンギンの餌となるイワシなどの魚の乱獲、海岸の開発などにある」そうです³⁾。天王寺動物園ではフンボルトペンギンの餌やりの様子が公開されていることもあり、ペンギンがどのように食べ物を食べるのか、飼育員との関わりを見られる貴重な機会になっていました。令和 5 年 4 月 26 日に「ペンギンパーク & アシカワーフ」がリニューアルオープンしていて⁴⁾、とても綺麗でした。

私自身も天王寺動物園でペンギンたちを実際に見て、想像していたよりも元気でよく動き回る姿に驚きました。左右によちよち歩いたかと思うと、水の中に潜って、スイスイと泳ぎ回っていました。ペンギンというと寒いところに住んでいるイメージがありました。しかし温暖な地域に住む種類もいることを知って、さらに興味が湧きました。また天王寺動物園のフンボルトペンギンは元気で左右によちよち歩いたり、元気に泳ぎ回っていました。ただ、「可愛い動物」として見るだけでなく、その背景にある自然環境の問題や絶滅の危機について考えるきっかけになりました。今後もこのような動物園での展示や情報発信を通して、多くの人にフンボルトペンギンの魅力や現状を知ってもらえたらいいと考えました。

【注】

1) 天王寺動物園 <https://www.tennojizoo.jp/picturebook/bird/humboldtpenguinnew/> (採録日 2025 年 7 月 2 日)

2) PENGUIN BOOK 「フンボルトペンギン【特徴・生態】」 <https://penguin-book.com/humboldt-penguin/> (採録日 2025 年 7 月 2 日)

3)Endangered World Animal

<https://www.endangeredworldanimal.com/category/south-america/> （採録日 2025 年 7 月 2 日）

4)天王寺動物園 <https://www.tennojizoo.jp/picturebook/bird/humboldtpenguinnew/> （採録日 2025 年 7 月 2 日）

【参考文献】

山際寿一（監修）2011『講談社の動く図鑑 Move：動物』講談社

Endangered World Animal. <https://www.endangeredworldanimal.com/category/south-america/>（採録日 2025 年 7 月 2 日）

PENGUIN BOOK 「フンボルトペンギン【特徴・生態】」 <https://penguin-book.com/humboldt-penguin/>（採録日 2025 年 7 月 2 日）

天王寺動物園 <https://www.tennojizoo.jp/picturebook/bird/humboldtpenguinnew/>（採録日 2025 年 7 月 2 日）



写真1 ペンギンの情報（天王寺動物園）撮影：深海心渚

イヌ科とネコ科の動物

国際観光学部 1 年 川崎詩帆

私は、渡辺ゼミのフィールドワークで天王寺動物園に行ってきました。そこで私が興味を持ったのは、イヌ科とネコ科の違いについてです。なぜ興味を持ったかと言うと多くの人がイヌやネコを飼っていて身近に接する機会が多いからです。

主にイヌ科に属する動物は、イヌ、オオカミ、キツネ、ジャッカルなどです。それに対してネコ科は、イエネコ（猫）、ライオン、トラ、ヒョウ、チーターなどがあげられます。そしてその中で私が、興味を持った違いが2つあります。天王寺動物園の解説板によると、1つ目の違いは、イヌ科とネコ科の爪の構造です。イヌ科の動物たちは、群れを作り取り囲んで獲物を追い詰め捕らえます。その一方でネコ科の動物たちは、物陰から一気に飛びかかり、前足の爪を突き立てて獲物を捕らえます。彼らの狩りの方法に大きく影響しているのが爪の構造の違いです。ネコやライオンなどネコ科の動物は爪が鋭く、そして音を立てずに獲物に近づくため、爪をしまう必要があります。イヌやオオカミなどのイヌ科の動物は、長い距離を走る必要があるため、「地面を強く蹴る」という役割をもっています。このため、イヌ科の爪は太くて頑丈で仕舞うことができません。ただし、ネコ科の中でもチーターの爪は速く走るためのスパイクとなっているためしまうことができません。このように例外もありますが、イヌ科とネコ科の爪の違いだけで様々なことがわかりました。

二つ目は、イヌ科とネコ科の聴覚と視覚と嗅覚についてです。ねこのきもち WEBMAGAZINE によると、イヌ科とネコ科でも優れている感覚の順番が違います。例えば、イヌの場合は、嗅覚、聴覚、視覚の順番に優れております。ネコの場合は、聴覚、嗅覚、視覚の順番で頼りにして行動しています。嗅覚の場合は、ネコよりもイヌの方が優れていて、およそ人の 100 万倍～1 億倍の嗅覚をもっています。その嗅覚を生かして警察犬や災害救助犬などとしても活躍しています。聴覚の場合は、イヌは高音域を聞きとる能力に優れており、猫はさらに高音域を感じることができ、イヌに比べて低い音域も聞くことができます。総合的には、イヌの聴覚は人の 6 倍以上、ネコは犬の 2 倍も発達しています。視覚に関しては、イヌは人の視覚を 0.1 とすると 0.3 ぐらいといわれています。ネコの視力は 0.2 ぐらいです。視野の広さは、イヌもネコもあまり変わらないといわれていて大体 250 度といわれています。しかしネコは、目の前の早い動きを追うという能力に優れています¹⁾。

これらのことから、実際に天王寺動物園を訪れてみてイヌ科とネコ科の違いがよくわかりました。まず、イヌとネコでは、爪の構造に違いがあることがわかりました。ネコは爪をしまえるけど、イヌは爪をしまえないことがわかりました。次に得意な五感に違いがあることがわかりました。イヌは嗅覚に優れていますが、ネコは聴覚に優れており、高音域も低音域も得意であることがわかりました。ネコはかわいい顔をしながらまわりの音をよく聞い

ており、凶器となる爪を隠し持っていることがわかりました。イヌは嗅覚が優れており、ネコほどではないけれど、人間よりも聴覚に優れていることがわかりました。天王寺動物園を訪れたことで、身近に周りで飼っているイヌとネコの違いについて普段は考えることがない視点から学ぶことができました。次回は、事前調査をした上で、現地で調べたことを中心にレポートを書きたいと思います。

参考文献

1)ねこのきもち WEBMAGAZINE「犬と猫、どちらが耳や鼻が優れてる！？ 意外な違いの数々に驚き！」 <https://cat.benesse.ne.jp/withcat/content/?id=21936> (閲覧日:2025 年 7 月 9 日)



写真1 オオカミ！実は犬の祖先種であることを知りました。撮影：川崎詩帆



写真2 トラ。ネコはかわいい動物だと思っていましたが、ネコ科の動物には怖い猛獣が多いことがわかりました。撮影：川崎詩帆

チンパンジー

国際観光学部 1 年 白井 優姫

天王寺動物園でチンパンジーについて調べました。天王寺動物園の解説版によると、チンパンジーは、サル目、ヒト科、動物名「チンパンジー」、学名「*Pan troglodytes*」です。チンパンジーは、遺伝的に 98.8% ヒトと同じです。手は形がよく似ていて、ヒトと同じ平爪や指紋もあります。ただ、枝をつかんでぶら下がるときは親指以外の 4 本の指を使うため、人差し指から小指までが太く長く発達しています。目は白目の部分（強膜）が濃い茶色になっています。ヒトに白目があるのは、コミュニケーションをとるときに、どこを見ているかわかるようにするためだと言われています。足はヒトと違い、親指が他の指と離れています。この形によって足でも枝やものがつかみやすくなり、木の上で暮らすのにとっても役立ちます。お尻はメスの性周期はおよそ 36 日で、排卵が近くなるとお尻（性皮）が腫れてきます。オスに発情を知らせる合図になっています。

チンパンジーは声や表情で感情を表現しています。（おいしい）は、おいしい食べ物を見つけたときや、食べているときに発します。（笑い）は、口を丸く開け、遊んでいるときに発します。（興奮）は、自分の存在をアピールするときや、遠くにいる仲間に情報を伝えるときに発します。（挨拶）は、自分より優位な個体に向けて発します。相手の顔に向けて手を伸ばすこともあります。（威嚇）は、喧嘩中など恐怖を感じたときに、歯茎を見せて発します。

チンパンジーは群れで生活する動物です。野生では、複数のオトナオスと複数のオトナメス、そのコドモたちを含む 20～100 頭ほどがいくつかの小集団に分かれます。群れから離れたりくっついたりする「離合集散」を繰り返しながら暮らしています。性成熟は 7-8 歳でメスは 10 歳前後になると生まれた群れを離れ、別の群れに加わります。オスは大人になっても生まれた群れにとどまる父系社会です。異なる群れ同士はとても仲が悪く、激しい争いになることがあります。長い距離を移動するときは、枝を渡るよりも地面を歩いていくことが多い。一列になって歩いていることもよくあります。

チンパンジーの展示場は高く下が見えにくかったり、上が見えにくかったりしないように二段に分かれていました。下の段はガラスばかりで近くで安全に見学できます。上の段は広く見渡せるようになっていました。展示場は 360° どこからでも見学はできなかったです。しかし、背景がさみしくないように空の絵が描かれていました。見学した当日は雨だったので雨に濡れないように少し屋根のある場所にいました。人間と同じで雨が嫌いなんだなと思いました。

あまり知られていないツル科の動物

国際観光学部 1 年 奥村心海

1. はじめに

通天閣で昼食として串カツを食べました。昔ながらの味でとても美味しかったです。その後外国人への大阪観光についてのインタビューを終え、天王寺動物園へ向かいました。天王寺動物園に訪れるのは小学校 2 年生の遠足ぶりで、とてもわくわくしました。

2. ツル科について

私はツル科を調べる担当でした。そのため動物園に入園後すぐに「鳥のセカイ」エリアに向かいました。天王寺動物園には、ツル科の鳥が 7 種類飼育されていました。具体的には、アネハヅル (*Grus virgo*)、オオヅル (*Grus antigone*)、オグロヅル (*Grus nigricollis*)、ホオジロカンムリヅル (*Balearica regulorum*)、ソデグロヅル (*Grus leucogeranus*)、タンチョウ (*Grus japonensis*)、ナベヅル (*Grus leucogeranus*) です。今回は主にタンチョウ、オオヅル、ソデグロヅル、アネハヅル、オグロヅルの 5 種類の鳥の特徴について述べていきます。

天王寺動物園の解説版によると、タンチョウは現在釧路湿原に生息しており特別天然記念物に指定されています。また、夏になると、巣を作って 10 センチほどの大きさの卵を産みます。

オオヅルはツルの仲間の中で最も大きい種です。パキスタンからインド北部、東南アジア、そして最近ではオーストラリア北東部にも分布しています。体の部分は淡灰色をしているが、頭と首には羽毛がないため、赤い皮膚が裸出しています。鳥ですが干ばつの時には水を求めて移動します。

ソデグロツルの特徴は顔に男毛がなく、赤い皮膚が探出している。おもにシベリアで繁殖し、冬になるとインド、中国、日本などに渡って越冬します。日本にはまれに飛来し、鹿児島県出水市や福井県鯖江市などで越冬が確認されています。地上にいる時は全身が白く見えますが、翼の先端は黒色をしています。丈夫で長いくちばしは、水底の根を掘り出して食べるのに役立ちます。

次にアネハヅルはツルの仲間の中で最も小さな種です。シベリアやモンゴルの草原で繁殖し、秋にインドなどへ渡ります。日本には稀に迷鳥として渡来します。体の大部分は灰色をしています。顔や首は黒く、目の後ろからは白いふさ状の羽毛が出ているのが特徴的です。また羽 1 枚 1 枚が太長いです。

最後にオグロヅルの特徴は、胴体の色は亜鉛色で頭から首にかけてと尾羽、風切羽は黒色をしています。おもにヒマラヤ地方やチベット高原などの高地に生息し、繁殖地は標高の高い湿地や湖沼です。冬になると、中国の雲南省や貴州省などの標高の低い地域へ移動し、越

冬します。また、生息地の環境破壊により、数が減りつつあります。



写真1 2羽のオオヅル。 撮影：奥村心海

3. おわりに

天王寺動物園にはさまざまな種類の動物が飼育されており、それぞれの動物について詳しく学ぶことができました。また、ツル科の動物の生息地はおもにシベリアと中国が多いと理解しました。

前期の大学入門ゼミは、フィールドワークで天王寺動物園に行きました。天王寺動物園では、オオカミや白熊のような動物がたくさんいます。私は、その中で爬虫類生態館アイファアにあるグリーンイグアナについて調べることにしました。

爬虫類生態館アイファアは、天王寺動物園の中のアフリカサバンナゾーンにあります。ちょうど、動物園の新世界ゲートからすぐ左にあります。天王寺動物園のホームページによると、ここでは、爬虫類を中心に両生類、魚類から無脊椎動物までの動物が様々な環境に適応して生活する様子を展示しているそうです¹⁾。実際、訪れてみると、ワニやカメのような爬虫類がいたり、オオサンショウウオやカエルがいました。特にワニやオオサンショウウオのような人気がある動物や、日本ではあまり見られない動物のところに人が集まっていました。どちらかといえば水族館に近い感じで、イグアナのような爬虫類もいれば、カメのような両生類、魚類もいて、動物園も水族館ともいえる不思議なところでした。

天王寺動物園のホームページによると、「グリーンイグアナは、トカゲ目のイグアナ科、学名は *Iguana iguana* で、メキシコからアルゼンチンの水辺に生息し、木登り上手。オスは鼓膜の下と大腿部裏の変った鱗が大きい。性格は大人しいが、体長 1.8m くらいまで大きくなる」とあります²⁾。天王寺動物園で見たグリーンイグアナは、グリーンというより黄緑色に近い色をしていました。体は大きかったし、鋭い爪もありました。見た目は凶暴そうに見えましたが、性格が大人しいからか、木の上でほとんど動かずにじっとしていました。大腿部は見えませんでした。目の横にある鼓膜の下の頬のところに他とは違う大きな丸のような鱗が見えました。

私は、グリーンイグアナのことを、肉食動物だと思っていました。しかし、エサの置かれているところにはキャベツやいろいろな草が置かれていました。イグアナのまわりにも食べていたと思われるキャベツやほかの草が散乱していました。そこでグリーンイグアナは草食動物だと知り驚きました。

今回のフィールドワークで、私はこれまでイグアナのような爬虫類やカメのような両生類の動物をしっかり見ていなかったことに気づきました。動物園に行っても、私はライオンやトラのような動物園のメインとなる動物ばかりを見ていました。しかし、今回のフィールドワークに SA として参加し、1年生が事前に選ばなかったグリーンイグアナを調べてみて、ライオンやトラにはない気になるところや、調べた時の驚きがあることがわかりました。私は、イグアナが森の奥に棲んでいると思っていたので、森のなかでも水辺の近くに生息していることに1番驚きました。

【注】

1)天王寺動物園「爬虫類生態館アイファア」

<https://www.tennojizoo.jp/map/ifar/> (採録日：2025 年 7 月 9 日)

2)天王寺動物園なきごえ「グリーンイグアナ」

https://www.tennojizoo.jp/nakigoe/october/naki_cover_oct.htm (採録日：2025 年 7 月 9 日)

【参考文献】

天王寺動物園「爬虫類生態館アイファー」 <https://www.tennojizoo.jp/map/ifar/> (採録日：2025 年 7 月 9 日)

天王寺動物園なきごえ「グリーンイグアナ」

https://www.tennojizoo.jp/nakigoe/october/naki_cover_oct.htm (採録日：2025 年 7 月 9 日)



写真 1 天王寺動物園のグリーンイグアナ 撮影：辻脇充樹

おわりに

今年は国際観光学科に 170 人以上の新入生が入学しました。渡辺ゼミにも 14 人の新入生がやってきました。ひさびさの大所帯です。恒例の大阪フィールドワークも無事終えることが出来ました。今年の新入生は、外国人にインタビューするだけでなく、串カツまで食べて、天王寺動物園で動物まで調べるという欲張りなプランを作りました。

あいにくの雨でインタビュー用紙が濡れて大変でしたが、外国人の方々はみな親切に質問に答えてくれました。日本在住のフランスのガイドさんは、「日本人は恥ずかしがり。もっと自分に自信を持てばパーフェクト」と日本人の短所について答えてくれました。

今の日本人には、異文化に対して自分で一線を引いてしまう所がどうしてもあります。その傾向は日本が内向きになるに連れて年々強まっているように思います。ある学生もレポートに書いておりましたが、「話しかけるまでが壁」だったそうです。学生たちはその一歩を踏み出したことで、日本を訪れる外国人は意外と親切な人が多いことを発見しました。そうした自分の体験を通じて物事を考える力を国際観光学科で学んでいって欲しいと私は願っています。

ただ、日本を訪れる外国人には日本びいきの方が多いのも事実です。それに世の中にはリップサービスということもあります。「こんなにたくさんの観光客が来ているのだ」「だから日本は偉大なのだ」とか、学生たちには極論に走ることなく、冷静に周囲を見る目も養って欲しいと思います。

天王寺動物園には、各自調べる動物を決め、事前学習をした上で訪れました。しかし、多くの方は、帰ってきてから調べた内容の方が事前学習よりも多くなりました。レポートを書いてから、現地でしかわからない情報があることに気づいた学生もありました。後期のフィールドワークでは、ぜひ現地で学んだことだけでレポートが書けるようになって下さい（渡辺和之）。

++++++
渡辺和之（編）『2025 度前期大学入門ゼミフィールドワーク報告書』阪南大学国際学部国際観光学科渡辺研究室 2025 年 10 月 15 日発行

〒580-8502 大阪府松原市天美東 5-4-33 阪南大学国際学部国際観光学科

電話：072-332-1224 メール：watanabe@hannan-u.ac.jp URL <https://www.hannan-u.ac.jp/>

Kazuyuki Watanabe (ed.) 2025 Shinsekai and Tennoji Zoo: Students' Fieldwork Reports 2025. Osaka: Faculty of International Tourism, Hannan University. Address: 5-4-33, Amami-Higashi, Matsubara, Osaka, 580-8502, Japan.

E-mail: watanabe@hannan-u.ac.jp

++++++